

カンショ焼酎粕ケーキ混合発酵 TMR の 粗飼料源の違いは乳生産等に影響しない

近年、濃厚飼料価格は高止まりの状況にあり、飼料コスト低減や、飼料自給率の向上が喫緊の課題となっています。そこで、宮崎県畜産試験場では、宮崎県で広く作付け・利用されている自給粗飼料とカンショ焼酎粕ケーキ（SDC）を乳用牛用 TMR 原料として有効利用するために、主たる粗飼料源を変えた SDC 混合発酵 TMR を調製し、発酵品質を評価した上で、これらを乳牛に給与した場合の栄養代謝および泌乳成績について検討しましたので紹介します。

☆ 技術の概要

1. SDC 混合発酵 TMR の飼料構成は、粗濃比が 5 : 5、SDC の乾物含量が 4%、イタリアンライグラスサイレージの乾物含量が 20%で、主たる粗飼料源をトウモロコシサイレージあるいは、飼料用イネホールクロップサイレージ（以下、CS-TMR および RWCS-TMR）とし、それぞれの乾物含量を 25%としました。
2. 発酵 TMR の発酵品質は良好であり、発酵に伴う化学成分は、主たる粗飼料源の違いによって変化しました。
3. ホルスタイン種乾乳牛 4 頭を用いて飼養試験を行った結果、発酵 TMR の主たる粗飼料源の違いは、乾物や粗タンパクの消化率には影響しないが、TDN 含量に違いがありました。
4. 主たる粗飼料源の異なる SDC 混合発酵 TMR を泌乳中後期の搾乳牛に給与しても、乾物摂取量や TDN 摂取量および乳量・乳成分に差は認められず、搾乳牛の飼料資源として有効に活用できることが示されました。



図 1 甘藷焼酎粕ケーキ



図 2 飼料用イネ主体の発酵TMR調製



図 3 発酵TMRの飼養試験状況

☆ 活用面での留意点

カンショ焼酎粕ケーキ混合発酵 TMR の粗飼料資源として、トウモロコシサイレージや飼料用イネホールクロップサイレージを有効に活用することが可能です。詳しくは、宮崎県畜産試験場酪農飼料部 西村慶子（Tel : 0984-42-1122）にお問い合わせください。

（日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 加茂幹男）